

芳秋遺稿

上

~ 4
2319
1



門 利 4
2819
卷

席

芳秋集稿なまのいへく 嗣子山内規之ぬを

いへくわいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへく

いへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへく

芳秋やいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへく

いへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへく

奉仕さるるいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへくいへく

U

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a short story, consisting of approximately 10 lines of text.

成申年春 七十二歳 漢三行風識

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Urdu or Persian, consisting of approximately seven lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Urdu or Persian, consisting of approximately seven lines of text.

明治十一年

徳園のついでに

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of characters.

第一日

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of characters.

園 書

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a book.

霞 中 學 書

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a book.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

夕 書

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

朝 學 書

籠も若菜いれり

春の野はまた雪あり都人の泣くは梅にわれは

若菜多

何處よりまつ梅もあはれ春の雪のふりては

春霜

有明のひかりもまた影なきは春の雪もあはれ

春雪

大方の山も雪もあはれ春の雪もあはれ

山残雪

大方の山も雪もあはれ春の雪もあはれ

題

若菜のそとわらわぬは春の雪もあはれ

むらあけ瀧のつららの白も春の雪もあはれ

梅

雪の山に梅の花もあはれ春の雪もあはれ

里の子もあはれ梅の花もあはれ

梅欲耳

ちつ春のひかりまじりて梅の花をこころにたよりぬき白のひよりに

雪中梅

雪のうしろにまじりて梅の花をこころにたよりぬき白のひよりに

梅の花薫風

梅の花の薫風をこころにたよりぬき白のひよりに

夜梅

夜の梅の花をこころにたよりぬき白のひよりに

月前梅

月の光にいらりて梅の花をこころにたよりぬき白のひよりに

とむらぬ朧月花の香風をこころにたよりぬき白のひよりに

山詠梅

山月の花をこころにたよりぬき白のひよりに

如郷梅

如郷の梅の花をこころにたよりぬき白のひよりに

梅有遅速

ひらきつればさきさきとくさきとくさきなりおな—園中の梅の初花

梅近聴鶯

うらひまの木のさきさきなりね春もな—梅のさきさきうらひま

梅紅白

ふれなわさきさきなり梅のさきさきとくさきとくさき

天満宮献詠—梅の花とくさきとくさき

いふららら

あはれのさきさきとくさきとくさきとくさきとくさき

名古屋なる大崎為尾崎吉後始めて

訪ひ来て帰りて後のたより六つしよ伏見の

梅見にもの—きさき—あはれ歌いあはれ

ふれさきさきとくさき

伏見よりつとさき—梅のさきさきとくさきとくさき

さきさきとくさき

あはれまのさきさきとくさきとくさきとくさき

春の夜のやとさきとくさきとくさきとくさきとくさき

いづれにや梅の花もそ春のついでに
梅の花を流るゝ山水のよきついでに

水邊柳

釣人の心なるといふれ柳のいとたきなうりやあり
おりたそと鮎子ほるき川岸にあつちたれし春柳の糸

垂柳臨水

いづれにや梅の花もそ春のついでに

雨後柳

春は雨のころや柳のいとたきなうりやあり

柳露

いづれにや梅の花もそ春のついでに

岡若草

いづれにや梅の花もそ春のついでに

旅若草

いづれにや梅の花もそ春のついでに

春月程

梅の花もほふあり香にまゆかきもさかたの春をさし 春の月

山春月

山の春もほふあり香にまゆかきもさかたの春をさし 春の月

山春月

山の春もほふあり香にまゆかきもさかたの春をさし 春の月

江春月

江の春もほふあり香にまゆかきもさかたの春をさし 春の月

江の春もほふあり香にまゆかきもさかたの春をさし 春の月

春曙

お春の曙 誰のまゆかきもさかたの春をさし 春の月

お春の曙 誰のまゆかきもさかたの春をさし 春の月

田家春曙

田家の春曙 誰のまゆかきもさかたの春をさし 春の月

暮山春雨

暮山の春雨 誰のまゆかきもさかたの春をさし 春の月

庵春雨

庵の春雨 誰のまゆかきもさかたの春をさし 春の月

昔の夜の月夜をたづねてゆく

夕陽鷹

昔の夜の月夜をたづねてゆく

昔の夜の月夜をたづねてゆく

旅よあつても

昔の夜の月夜をたづねてゆく

かゝるもの

昔の夜の月夜をたづねてゆく

春駒

昔の夜の月夜をたづねてゆく

菜花

川尻の鮎子もいまのつあふらん

櫻

おふくも昔もいかにおふきれ

霞中花

三葉のふりりりそれ九重の

樹間花

神垣の杜のまきまきとてまきまきとてあり百のうらまへも

杉有花

新ちもき 杉のあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも
亀山の松にまゝとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも
まゝとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも

都花

あはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも

櫛邊花

あはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも
底のまきまきの松とてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも
はとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも
山崎の花見のなまきとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも

海邊花

あはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも
磯のまきまきの松とてあはれもたふしとてあはれもたふしとてあはれも

河上花

大河川に花を散らすは春の風情をしのぶに似たり

池上花

池上花は水に映りては春の光景をしのぶに似たり

關路花

關路花は道に咲きては旅人の心を慰むに似たり

山家花

山家花は山に咲きては山人の心を慰むに似たり

鄰花

鄰花は近きに咲きては近き人の心を慰むに似たり

雨中花

雨中花は雨に咲きては雨の心を慰むに似たり

相花

相花は共に咲きては共に人の心を慰むに似たり

喜情在花

喜情在花

陽田川にさかすかたの神垣ありて
あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

瀧落花

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

春日野極あり鹿たそり

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

落花風

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

あまのついでにさかすかたの神垣ありて

春の風をよみながら 春の風をよみながら

野遊

春の風をよみながら 春の風をよみながら

燕

今年も今更け 行の事と 春の風をよみながら

燕来

春の風をよみながら 春の風をよみながら

雛子

春の風をよみながら 春の風をよみながら

江春真

春の風をよみながら 春の風をよみながら

春眺望

陽田川流るるを力おの川より 春の風をよみながら

海邊春望

中ら船の帆をよみながら 春の風をよみながら

春の風をよみながら 春の風をよみながら

長き日よほつてあゝ夏の日もほつてゆく春の那

春風

世の中は枝をなやませぬ春風の音もささるる強ぬ入るる春
ひむのの野原の草うらやまそみらるる春のさあや

春鳥

春の鳥をわらうとむらさきもささるる春のさあや

春鐘

春の鐘をわらうとむらさきもささるる春のさあや

夏歌

首夏藤

あざやなをわらうとむらさきもささるる春のさあや

首夏川

世の中は春におかれてささるる川なやませぬ春のさあや

首夏浦

世の中は海むつとつ川のかつて船をなやませぬ春のさあや

仙其まはりてくる夏の日もほつてゆく春の那

唐瀬川なすの一本々やひらふらふこころなまきり雪むらさき

新樹

夏木れは老木の枝もみぢかしてなまきりかきおのりさうり

新樹露

石も木もこもこを庭の影さあつらふみぢかりかきおのりさうり

雨後新樹

なまきりおのりさうり静なるおのりさうりさうりさうり雨れ

新竹

子なるる新の親木かきおのりさうりさうりさうりさうり

窓新竹

吹風ふ窓の影かきおのりさうりさうりさうりさうり

里卯花

少雪ふりもまじり里の卯の花に雪ふらわさしむのさうりさうり

遠村卯花

郭からなまきりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

葵

手早振か殿のよあれのあらひまの事さうらひもあつた代りたを

葵 惣心算

滞車のまほのあらひに神のりふもあらたき一もあつた

郭 公

なまはあわさるもあつて日長き積る事さうらひもあつた

目くらあつたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

深衣郭公

家持のよりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

遠郭公

我たあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

都郭公

九重のまわりのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

若よりのあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

渡部公

旅人の舟よふ夢に日たしそりまうらなうのしるあはれなれば

名所部公

宇治らのやまのあはれまは初夢にあり芽しむらむらちまうら

田舎にありけりら部公らまうら

まうらまうらよふあはれあはれし部公は海にありまうらまうらまうら

早苗露

らのまうらまうらあはれまうらまうらまうらまうらまうらまうら

菖蒲

水あはれまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうら

池菖蒲

あはれまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうら

盧橘

あはれまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうら

盧橘菫袖

白妙の袖まうらまうらまうらまうらまうらまうらまうらまうら

夏草

夏草の葉は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

閑居夏草

閑居の夏草は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

夏草子

夏草の子は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

草

草の葉は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

若根の谷の草は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

蓮

蓮の葉は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

蓮の花は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

夕顔

夕顔の葉は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

夕

夕の葉は、花の後に生ずる。葉は、花の後に生ずる。

七夕

秋風吹くはとまらぬ
深衣聴菘

おとこを吹くは夜半の秋風をまけしや
風前薄

薄帯露

夕月の光もそれさ花もささるるも
上十四

朝顔

七重の朝顔は秋の昔を経てうららかに
中々うららかにやまの人の昔をうららかに

葛風

秋風はふもよみ人たれて葛の葉は
閑庭草花

露映月

てのまゝにおまゝあつたれは、木の根は月より家もまゝ也きり

虫

さもく木の木の思ひよたつていふもなほおほふもむしりあつて

朝 虫

浅らふのをのどかきと云ふもなほあつたつたもむしりのあつた

月 前 虫

ふくもあつてあつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

秋 虫

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

松 虫

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

秋 虫

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

秋 風

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

園秋風

草むらぶらさるるしづかしの秋風を
かきこもるるも

行路秋風

あゝ東の山道の屋敷うらなひきか
らるるも

古寺秋風

ほろろのなまを古寺の
まのあたりに

秋夕傷心

世の中さうとほつら
いふも

秋夜

しづかしの秋の夜
は

題

あまの夕空を
かき

朝露の日は
あ

聖分とあれは
あ

夕月

うららかに
あ

晴夜月

多きゆにゆくもさきほつきはてしなく唐くまをる月、乳

松間月

山松の枝をくくると唐くまの骨よりお神をくくると唐くまの月、うな

山月照松

大方の人、乳を中むくく月をみつけ山を照らす

仲秋十五首の歌よめる中に

大層のふとを方松の中そらにさきく月影のくまを

月と上人みられ塘江川もかき涼くお木橋のうらに
さつとくも誰のこもらん昔の中の人喧嘩あまの松の月

名所月

ひの松れいもさきくたも松の月もた月もたよふ唐涼の池

水邊月

石のうら水のきくたもて月をひくくたのうらおのりかき

海邊月

おのりかきくくはてしなく大層の松のうら月

岡月

の月つる春の星の光あつる夜もあつる月

古寺月

清水のおぼろの流のおと流るる水もあつる月

田家月

野のあつる馬の歩むる道あつる月

うらむる田つる力里のあつる月

旅月

夕月つる星の光あつる夜もあつる月

月夜越山

我のあつる月つる星の光あつる夜もあつる月

月前露

まじあつる月つる星の光あつる夜もあつる月

月あつる星の光あつる夜もあつる月

あつる月つる星の光あつる夜もあつる月

あつる月つる星の光あつる夜もあつる月

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

題三

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

原素

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

朝馬

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

韮中厩

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

月前鹿

あはれなるものぞかしとてはなれど
あはれなるものぞかしとてはなれど

鹿亭遥

山崎のふかき川に舟をこぎてゆく

河霧

朝日さす川霧の中より舟をこぎてゆく

題

舟をこぎてゆく川霧の中より舟をこぎてゆく

擣衣

秋風のふかき川に舟をこぎてゆく

秋の夜のふかき川に舟をこぎてゆく

月下擣衣

夜更けのふかき川に舟をこぎてゆく

月夜のふかき川に舟をこぎてゆく

暁擣衣

赤ひょうあつきのふかき川に舟をこぎてゆく

舟の擣

舟をこぎてゆく川霧の中より舟をこぎてゆく

薄雪菊

うららかに南の山に咲く花もさきから花の香もさきから花の香もさきから

月下菊

宵明の月の光を帯びて咲く花のまはりに花の香もさきから花の香もさきから

谷菊

谷水のなれよりの花もさきから花の香もさきから花の香もさきから

山吹菊

あまの山吹の香もさきから花の香もさきから花の香もさきから

菊

これ花の代りもさきから花の香もさきから花の香もさきから

菊花色

うららかに白くもさきから花の香もさきから花の香もさきから

明宮立太子の盛典おこなふとき

菊翫千秋といふとき

おもしろい花の香もさきから花の香もさきから花の香もさきから

菊の香

大和川のほとりには
あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

河紅葉

大和川のほとりには
あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

葛

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

題

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

秋橋

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

あけぼのの光を
かきとめて
あそびのこころ
あはれ

秋燈

犬つねて狩まじし一山をの松を一ちりまをけりおれ

木枯

おたふりまをくた空一ちの葉の枝をなみふくの風
うらふりまをくた空一木枯よ家もくちをいふておれ

空樹

おたふりまをくた空一ちの葉の枝をなみふくの風

寒松

大方にをれまをくた空一ちの葉の枝をなみふくの風

空樹

おたふりまをくた空一ちの葉の枝をなみふくの風

三峰のあいの枯葉を吹風にまをりてくちをり川を

氷初結

おたふりまをくた空一ちの葉の枝をなみふくの風

池水初氷

あゝなまり水をさくけり池水のまをりてくちをり川を

空樹残月

松上雪

うたふもほくありー山風のあはれゆれ松のうら雪
あそこれのあまをり六あつて松のーたもら雪あつてり

檜雪

多雲のふとたれるちあふ力松原たつてはゆき雪のれ

竹雪

ふれ竹のふゆきーきー園のあふれゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

雪中遊舞

月清とはまはつてゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

あーたーゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

足引のらゆき高ねの本あつてりゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

岩窟

煙火似き

たゞしぬく桶の底のころよりとるよふらぬ事なつて

雪中早梅

雪のころも梅の花もさうなつて

冬夢

あつた夢のころもさうなつて

冬人事

いたる人酒あるころもさうなつて

歳暮市

おととしのころもさうなつて

